

インドネシア人に対する日本語教育

Teaching Japanese to Indonesian People

藤原 雅 憲

Masanori FUJIWARA

0. 本稿の目的

2008年にEPA（Economic Partnership Agreement：経済連携協定）に基づき、第1期インドネシア人介護福祉士候補生が来日した。日本語研修の後に各施設で実務を経験し、4年間の滞在期間中に介護福祉士国家試験を受験し、合格しなければ本国に帰国するという協定内容である。彼らは2012年に国家試験に臨むことになっているが、同じくEPAにより来日したインドネシア人・フィリピン人看護師候補生の国家試験の結果が芳しくなかったため（インドネシア人2名、フィリピン人1名が合格）、第1期生208名の合格率が懸念されている。

西郡他（2011）は、第1期生の受け入れ方や研修の現状を振り返り、いくつかの点を指摘している。その中には、「第23回介護福祉士国家試験の難しさ」ゆえに難解な用語にルビを振ることや言い換えをする必要性を説くものがある。また、「介護現場・関連領域と日本語教育の継続的な関わり」を重視する提言もある。ただ、日本語教育の内容・方法に関する考察が不足していると感じられる。

本稿では、日本国内では稀な、学習者がほぼ一様である日本語クラスを指導・運営する

上での留意点の一つを述べたい。学習者がみんな、インドネシアでの現職の介護福祉士であり、インドネシア語を母語とする、という点で一様であるとするならば、その条件に対応しうる教育内容を用意すべきである、というのが留意点の一つである。今回は初級教科書に限って、文法教育の面から考えていきたい。

1. はじめに－問題の所在

インドネシア人日本語学習者も、他の言語話者と同様のエラーを作り出す。また、同様に、正確に捉えられなかった箇所を聞き返すという、外国語学習者の常套手段も用いている。以下の例はそれらのことを如実に示している。

<データ1：日本語初級前半終了のインドネシア人日本語学習者Bの会話。Tはインタビューア。>

T：～ハ、クニデハ ナニヲ シテ イマシタカ？

B：ワタシハ クニデハ う～ん、ギンコー、ギンコーニ、は？ ナニヲ シテ イマシタカ？⁽²⁾

T：ハイ、ナニヲ シテ イマス。

B : Ya, ギンコーニ⁽¹⁾ ハタライテ イマス。
 T : ソウデスカ。ナンネンクライ ギンコー
 デ ハタライテ イマシタカ？
 B : あああむ, 13ネンクライ
 T : ソウデスカ。
 B : ハタライテ イマシタ。

このような会話データに対して、次節で触れる「第二言語習得研究」の立場からは、次のような分析を試みている。

下線部(1)は、「ギンコーニ」→「ギンコーデ」となるべきものである。このようなエラーについて迫田(2001)では、「[に]と[で]のユニット形成」という見方によって説明を行っている。しかし、この場合は、「地名や建物を示す名詞(東京・食堂など)+「で」」というユニットが適用されないエラーとなっている。この学習者は他のストラテジーを用いている可能性が考えられる。

下線部(2)では、「聞き返し(Request for clarification)」によって不明な箇所を理解しようとしている。「ナニヲ シテ イマシタカ？」という発話の中で、学習者が特に「V-te iru」という、テンス・アスペクトに関わる形態に注意を払っていることがうかがえる。

2. 第二言語習得とは何か

外国語学習者が目標言語をどのように習得していくかということについては数十年の研究の歴史がある。そのうち、第二言語習得という研究領域に限定すると30年近い研究の積み上げがある。Gass & Selinker (2008:7)はこの領域について次のように述べている。

Second Language Acquisition (SLA): This is the common term used for the name of the discipline. In general, SLA refers to the process of learning another language after

the native language has been learned..... The important aspect is that SLA refers to the learning of a nonnative language after the learning of the native language..... By this term, we mean both the acquisition of a second language in a classroom situation, as well as in more “natural” exposure situations.

また、白井^{しらい}(2008:iv~v)はこの領域の広がりについて次のように述べている。

「第二言語習得というのは非常に複雑な現象です。そして、それを理解するためには、様々な観点から接近することが必要です。まず、習得する対象は「言語」です。この複雑なシステムの習得を対象とするため、言語学の知見が役に立ちます。また、「学習」という認知活動を扱うので、心理学や教育学の知見も利用する必要があります。言語と社会・文化は切っても切れない関係にあるので、社会学、文化人類学などの示唆も必要です。また言語学習や言語処理はいうまでもなく脳が司っているので、脳科学を使ったアプローチも特に最近は増えています。要するに、言語の習得・使用という認知活動を学際的に研究するのが「第二言語習得」という学問分野なのです」

4. 第二言語習得研究への道—第一言語の役割

4.1. Behaviorism : 行動主義

1950年代は、言語学では構造主義、心理学では行動主義が花盛りであった。前者は、言語が経験と習慣の型であり、体系的な構造を持つとし、後者は、刺激反応によって学習が可能となるとした。これら二つを潮流として外国語教育の改変が起こった。これが行動主義である。Gass & Selinker (2008:80-81)は

次のように述べている。

Within the behaviorist framework speaking consists of mimicking and analogizing. We say and analogize from it. Basic to this view is the concept of habits. We establish a set of habits as children and constitute our linguistic growth by analogizing from what we already know or by mimicking the speech of others.

(Ex) 5時に図書館を出ます (8時, 家) →
8時に家を出ます

この考え方に基づいてオーディオリンガル・メソッドが誕生する。もっばら型の反復に終始するパタン・プラクティスが代表的な練習方法となった。

4.2. Contrastive Analysis : 対照分析

外国語学習者は、目標言語の型を学んだ後に文を作らせてみると所々で誤りを犯す。その理由を、学習者の母語が影響しているとする考え方が「対照分析」である。これについて (Gass & Selinker (2008:96-97) は次のように説明している。

What are the tenets of contrastive analysis? Contrastive analysis is a way of comparing languages in order to determine potential errors for the ultimate purpose of isolating what needs to be learned and what does not need to be learned in a second-language-learning situation.....
....one does a structure-by-structure comparison of the sound system, morphological system, syntactic system, and even the cultural system of two languages for the purpose of discovering similarities and differences.

A. The major source of error in the production and/or reception of a second language is the

native language.

B. One can account for errors by considering differences between the L1 and the L2.

(Ex) English learners of French

Je vois elle. ←I see her., Le chien a mangé les. ←The dog has eaten them.

この例では、英語語を母語とするフランス語学習者は、英語の影響を受けて、人称代名詞 (この場合, elle = 彼女 (を)) は動詞の前に置くというルールを守らずに、英語のルールを適用してしまったために誤った文を産出すると説明するのである。

3.3. Error analysis : 誤用分析

1960年代後半になって、外国語学習者が目標言語で話したり書いたりする時に現れるエラーを、目標言語との関係で捉えることが必要であるとの主張がなされた。S.P. コーダーである。このことについて Gass & Selinker (2008:102-103) は次のように述べている。

What is error analysis? As the name suggests, it is a type of linguistic analysis that focuses on the errors learners make. Unlike contrastive analysis, the comparison made is between the errors a learner makes in producing the TL (=Target Language) and the TL form itself..... In contrastive analysis the comparison is made with the native language, whereas in error analysis, it is made with the TL.

There are a number of steps taken in conducting an error analysis.

1. Collect data.
2. Identify errors.
3. Classify errors.
4. Quantify errors.
5. analyze source.
6. Remediate.

エラー分析の手続きにもいくつかの段階があ

り、多くのデータの中からエラーを特定し、その原因を明確にし、分析結果を教育現場に活かすことが大切であると考えられている。

3.4. Interlanguage : 中間言語

この用語を使い始めたのはSelinker (1972)である。これについて、Selinker (1988: 25-45) は次のように説明している。

Observation suggests that few adults master a second language to the point where they are indistinguishable from native speakers of the target language (TL). Many error analyses have revealed linguistic differences between the sentences produced in a second language by second-language learners and corresponding sentences produced by native speakers. Moreover, observation suggests that these differences, or errors, often remain over time.

Thus, it has been proposed that there is a linguistic system which underlies second-language speech—one which is at least partially distinct from both the native language (NL) and TL. This new linguistic system has been called, among other terms, a “learner-language” system, an “approximative” system, and an “interlanguage”.

つまり、外国語学習者が独自に作り出す言語システムであり、母語とも目標言語とも異なるものであるとしている。そのようなシステムが生まれる要因として、A. Language Transfer, B. Overgeneralization, C. Simplificationを挙げている。

A. Language transfer (転移)

(Ex) English learners of French: lexical language transfer: Substitution of the verb “être”

for the verb “avoir.”

Il est trois ans. ← Il a trois ans. (He is three years old.)

これは語彙の転移で、年齢を表す場合、英語ではbe動詞を用いるが、フランス語ではavoir動詞 (=have) を使う。英語話者は英語に倣ってetre動詞 (=be) で表現しようとする。

B. Overgeneralization (過剰般化)

(Ex) English learners of French: Overgeneralization of the French adjective placement rule to an adjective which precedes the noun

Une maison nouvelle ← Une nouvelle maison (A new house)

これは、フランス語において形容詞が名詞を修飾する場合、名詞+形容詞という語順が普通であるが、そうではない場合にもその語順を適用してしまう例である。一つのルールを、それが及ばないケースにまで当てはめてしまったために生じるエラーで、過剰般化と呼んでいる。

C. Simplification (簡略化)

(Ex) English learners of French: the infinitive used for present time and habitual meanings

Mon maman et mon papa aller à Glendon. ← Mon maman et mon papa vont à Glendon.

Le fille mettre du confiture sur le pain.

← La fille met de la confiture sur le pain.

フランス語を学ぶ英語話者のエラーを取り上げている。フランス語の動詞の活用は複雑である。不定法 = mettreで、直説法現在、je mets, tu mets, il met, nous mettons, vous mettez, ils mettentである。学習者はその煩雑さを避けるために簡単な形のmettreを使用してしまう。すなわち、より簡単な形式で代用するのである。これを簡略化と呼ぶ。

4. 学習者の言語

ここでは、3節で述べた第二言語習得研究の成果を踏まえて、インドネシア人日本語学習者の会話データを分析することにする。

4.1. データ2：日本語初級前半終了のインドネシア人日本語学習者Uの会話。Tはインタビュアー。

T：～サンノ タンジョウビハ イツデスカ?

U：あむ、イッカゲツ ジューゴカデス。

T：ハイ、ジューゴニチデスネ。

U：ハイ、ジューゴニチデス。

T：キョネンノ ～サンノ タンジョービニナニカ プレゼントヲ モライマシタカ?

U：うううん、キョネンハ オボエマセン。

T：オボエマセンカ。ソーデスカ。

U：チョット マッテ、チョット マッテクダサイ。エー、ツマ、ツマガ、おー、ワタシノ オクサンガ ⁽²⁾うううん、イロイロ ホンヲ アゲマシタ。⁽¹⁾

T：ソーデスカ。

4.2. 下線(1)：「転移」による分析一語を選択する基準

授受動詞は日本語とインドネシア語では異なっている。以下のように、インドネシア語は英語と同様に、「与える」と「受ける」という二つの動詞で物の移動を表す。日本語では、物の移動を表すのに話者の視点加わる。

[インドネシア語]

(1a) beri; memberi, memberikan ('give')

(1b) Kuberikan apel ini kepadamu, Mini. (I give this apple to you, Minnie.)

(2a) dapat; diberi (di- is a prefix used for passive voice; diberi means 'be given.')

(2b) Di mana kamu mendapatkan buku itu?

(Where did you get the book?)

(以上の例文は (Walt Disney 2003) による)

[日本語]

(1a') あげる・くれる

(1b') ミニーにリングをあげました。

(1c) 友だちがリングをくれました。

(2a') もらう

(2b') 友だちにリングをもらいました。

会話のデータ2の中のエラー(1)「ツマガイロイロ ホンヲ アゲマシタ」では、「与える」動詞を使っている点は間違っていない。ただ、日本語では、視点によって「あげる・くれる」の中から一つの動詞を選択しなければならない。この学習者は、「あげる」をインドネシア語の「memberikan」と対応させたと考えることができる。つまり、母語からの転移が起こったと言えるだろう。

4.3. 下線(2)：社会言語能力という観点：相手への配慮

会話データ2の下線部分は興味深いことを物語っている。「ツマ、ツマガ、おー、ワタシノ オクサンガ」では、学習者は、発話の訂正を行っている。これは、この学習者がモニタリングを十分に働かせていることを意味している。モニタリングは、日本語教科書と日本語教室によって「ツマ対オクサン」という二項対立を知ったが、これを、母語であるインドネシア語の事実と対応させることから作動したのではないかと推察することができる。その事実とは、次のような人称詞に関する使い分けを指す。

Almatsier (2005:13) によると、一人称や二人称を表す語がいくつかあり、相手との関係によって使い分けられるという。

PERSONAL PRONOUNS

<1st person singular : I>

Saya: saya is the normal word for I.

Aku: aku is used by children or among close relations.

<2nd person singular is complicated in Indonesian : you>

Kamu/engkau are used when addressing children, pupils, juniors or person we know very well and who are of the same age or younger.

Saudara: lit: brother or comrade, when addressing people we do not know very well.

tuan: to a man

nyonya: to a married woman

nona: to an unmarried woman

ibu: (= mother) when addressing a woman-teacher or a lady of high social status.

[N.B.] The word “*Anda*” as the equivalent of the English word “*you*” has become very popular. It applies to anyone.

二人称を表す言葉には, *kamu*, *saudara*, *tuan*, *nyonya*, *nona*, *ibu*の6語ある。近年, *anda*という中立語が一般化しつつあるが, 伝統的なコミュニティでは依然としてこの6語が使用されており, 日本語を学習中のインドネシア人が「ツマ対オクサン」の違いを教えられた時には, これら6語の使い分けとの比較を試みるだろうと考えられる。この意味で, 例えば ‘wife’ しか持たない母語を持つ日本語学習者とは反応や解釈が異なると想定される。

5. 第一言語としてのインドネシア語の特徴と, 学習者の転移

インドネシアの社会において, インドネシア語が第一言語であるとみなすことはむずかしい。第一言語がジャワ語だったりスダ語だったりする場合が多いからである。しかしながら, 便宜上, インドネシア語を第一言語とするインドネシア人日本語学習者を念頭におくことにする。なお, 本節に出てくるマラ

イ語はムラユ語ともいい, インドネシア語の基礎となった言語を指す。

5.1. 語順

(1) Wikipedia (http://en.wikipedia.org/wiki/Indonesian_language) による

Adjectives, demonstrative pronouns and possessive pronouns follow the noun they modify.

(Ex) Bahasa Indonesia (=Indonesian language), buku pelajaran (=textbook),

Nama anak Hasan (=name of Hasan’s child), mobil baru (=new car)

Buku bahasa Indonesia ini/ (=this book about Indonesian Language)

(‘/’ is a disjunctive marker. Modifiers end in /.)

(以上の例は, 森山・柏村 (2003) による)

(2) 柴谷・影山・田守 (1982) によるマライ語の例: 日本語と逆, 鏡像の関係

a. 基本語順

Pukul sama dia = 彼を打て

(pukul→pukul=strike, dia=him)

b. 本動詞 + 助動詞

Dapat baca = 読める (dapat=can, baca=read)

c. 副詞 + 動詞

Dating tergopoh-gopoh = 急いでやってきた (dating=come)

d. 指示詞・形容詞・所有格 + 名詞

Rumah saya besar ini = この大きい私の家 (Rumah=house, besar=large)

e. 数詞 + 名詞

Rumah satu = 1軒の家 (satu=one)

f. 固有名詞 + 普通名詞

Mak Dolah = ドラおばさん

(mak→bibi=aunt)

g. 比較表現

Besar dari-pada anjing = 犬より大

さい (besar=large, anjing=dog)

h. 関係節 + 名詞

Taja yang memerintahkkan negeri ini
= この国を支配している王

(taja→raja=king, memerintahkkan→m
emerintah=dominate, negeri=nation)

(なお、括弧内は筆者による)

(3) データ 3 : 0 節と同じ学習者Bとのイン
タビュー

T : ドコニ スンデ イマスカ?

B : ワタシハ ナゴヤノ リュウガクセーカ
イカンノ サクラヤマニ スンデ イマ
ス。

→ナゴヤノ サクラヤマノ リュウガク
セーカイカン

「名古屋の桜山の留学生会館」というべ
きところ、「留学生会館の桜山」と言ってし
まっている。明らかに母語からの負の転移で
ある。

5. 2. テンス

(1) Almsier (2005) による

There are no tenses in Bahasa Indonesia. Tenses
are expressed by context.

(Ex) Polisi dating. = The policeman is coming/
was coming/comes/came.

(2) Wikipediaによる ([http://en.wikipedia.org/
wiki/Indonesian_language](http://en.wikipedia.org/wiki/Indonesian_language))

Verbs are not inflected for person or number, and
they are not marked for tense; tense is instead
denoted by time adverbs (such as “yesterday”) or
by other tense indicators (sometimes referred to
as aspect particles), such as belum (not yet) sudah
(already).

(Ex) Pergilah tidur. Ini sudah tengah malam. (Go
to bed. It is already midnight.)

Aku belum menyelesaikan PR-ku. (I haven't
finished my homework yet.)

(以上の例文は、Walt Disney (2003) による)

(3) データ 4 (再掲)

T : ~ハ、クニデハ ナニヲ シテ イマシ
タカ?

B : ワタシハ クニデハ う~ん、ギン
コー、ギンコーニ、は? ナニヲ シテ
イマシタカ?

T : ハイ、ナニヲ シテ イマス。

B : Ya, ギンコーニ ハタライテ イマス。

インドネシア語は、動詞の活用や助動詞の付
加などによってテンスやアスペクトを表示す
る手段を持たないとされる。kemarin (=昨日)
やbesok (=明日) を用いたり, sudah (=もう)
やbelum (=まだ) でアスペクト概念を支え
たりしている。従って、日本語学習者は「ツ
トメル・ツトメタ・ツトメテイル」という三
つの形式の習得に困難を感じている。そのた
めに、上のデータのような聞き返しになった
と考えられる。

6. 談話に現れる現象 : NTインドネシア語 - TL日本語間の習得研究に向けて

6. 1. データ 5

T : ナンネングライ シゴトラ シマシタ
カ?

Y : ワタシハ 2000ネンカラ 11ネン ハタ
ライテ イマシタ。

T : ドンナ シゴトラ シマシタカ?

Y : ワタシハ Tax-office ニ イマシタ。

6. 2. データ 6

T : ~サンハ イマ ドコニ スンデ イマ
スカ?

D : イマ ワタシハ カミムラチョーニ ス
ンデ イマス。

.....

T : ~サンハ ナニヲ スルノガ スキデス
カ?

D: ワタシハ スポーツガ スキデス。

ゆうこ: いいじゃない。外見なんか、どうでも。

6.3. 「ワタシハ」の出現

初級の教科書では一般的に、「私は～です」という文型を提出し、会話文の中にもこの文型を用いて自己紹介させる場面を登場させる。「私はスーニーです」というふうに。しかし、事実はそうはならないのであって、次の会話(1)のように、「ワタシハ」を省いた言い方のほうが自然である。

(1) 初級日本語教科書に現れる会話例 (筑波ランゲージグループ 1991)

木村 : 山下くん, こちら, インドのアニル・シャルマさん。

シャルマ: はじめまして。アニル・シャルマです。

山下 : あ, どうも。

木村 : シャルマさん, うちの研究室の山下くんです。

山下 : 山下です。どうぞよろしく。

シャルマ: どうぞよろしく。

* * *

山下 : ええと, アニ.....

シャルマ: アニル・シャルマです。シャルマと呼んでください。

山下 : あ, じゃ, シャルマさん。あの, お国は。

シャルマ: インドです。

山下 : そうですね。ご専門は。

シャルマ: コンピュータです。

(2) 「ワタシ」が繰り返し現れる談話: 名古屋大学言語文化部 (1992)

一方、「ワタシ」が頻出する会話も存在する。次は、3人の登場人物が各自の好みを話し合っている場面である。ここでは「主張する」という言語機能が支配的である。

まゆみ: やだ。わたしどっちかっていうとガリガリの方がいい。

まゆみ: ええ。

さおり: ゆうこ, 外見気になんない。

ゆうこ: うん。わたしはね, なんかあんまり顔なんかね, 考えない。

さおり: 受け入れられる, どんなんでも。

ゆうこ: どんなのでもって, うん, 現実さは, 外見より合うか合わないかの方が。

まゆみ: わたしは現実でもルックスは大事だと思う。

さおり: わたしも大事だと思う。

(下線は筆者)

会話(1)と(2)を比べると一人称詞の振る舞いが異なっていることに気付く。(1)では、あえて「ワタシ」を明示しない一方で、(2)では殊更に「ワタシ」を際立たせている。言い換えれば、対立を軸とするような会話では「ワタシ」を明示しなければならないのではないだろうか。このことを、「際立たせ」と呼んでもいいだろうし、以下のように「強調」と名付けてもよいだろう。

6.4. 原因を探る

(1) Almatsier (2005:46)

Word Order

There is hardly a fixed rule concerning word order in Indonesian sentences. The most important word that is in the mind of the speaker precedes the other words. Note the following sentences.

1. Kapal itu tiba di Tanjungpriok pukul 9 pagi. (kapal=ship, tiba=arrive, pukul=o'clock)

Pukul 9 pagi kapal tiba di Tanjungpriok.

Di Tanjungpriok kapal itu tiba pukul 9 pagi.

2. Polisi datang pukul 12 tengah malam. (datang=come, tengah malam=midnight)

Pukul 12 tengah malam polisi datang.

Tengah malam pukul 12 polisi datang.

(2) Wikipedia

Emphasis

Although the basic word order of Indonesian is Subject Verb Object (SVO), it is possible to make frequent use of passive or to scramble word order, thus adding emphasis on a certain sentence particle. The particle being emphasized is usually placed at the beginning of the sentence. In spoken Indonesian, the aspect of the sentence being emphasized is usually followed by a short pause before continuing on with the remainder of the sentence.

(3) 日本放送協会 (2005:42)

A : Kaki saya sakit. Saya mau dipijat. (kaki=foot, sakit=painful, dipijat=be massaged)

B : Ya. Saya cuci kaki dulu. (cuci=wash, dulu=first)

A : Dimasukkan ya? (Dimasukkan=be put inside)

B : Sekarang mana yang sakit? (sekarang=now, mana=where, yang=that which)

A : Kaki saya sakit.

A : Tolong lebih keras (tolong=help; please do..., lebih=more, keras=hard)

.....Aduh, sakit! (Aduh=oh dear!)

B : Maaf. (maaf=sorry)

(4) 日本放送協会 (2005 : 70)

A : Ini harganya berapa, ya Bu? (harganya=cost)

B : Ini saya jual dua juta lima ratus. (jual=sell, juta=million, ratus=100)

A : Oh, mahal sekali, ya! (mahal=expensive, sekali=really; very)

(5) 日本放送協会 (2005 : 62)

A : Saya mau sewa mobil. (sewa=rent)

B : Boleh. (boleh=may; be allowed to)

A : Satu hari berapa harganya? (harga=cost)

B : Harganya tiga ratus ribu untuk sepuluh jam.

(ratus=100, ribu=1000, untuk=for)

A : Kalau begitu, saya mau sewa dua hari saja. (kalau begitu=then; so, saja=only))

Ada sopirnya? (sopir=driver)

B : Ada. Sopirnya sudah siap. (siap=ready)

A : Mulai hari ini bisa? (mulai=begin, bisa=be able)

B : Boleh, bisa.

((1)~(5)の括弧内は筆者による)

以上のことから、インドネシア語では saya/andaは必須ではない。しかし、日本語学習者は「ワタシ」を多く使う。これは、Almatsier (2005) が述べているように、「心の中にある大切なものを強調するために、文の始めに置く」という学習者の方策を行使しているからではないだろうか？

7. 第二言語習得研究からの示唆－インドネシア日本語教育界への期待

7.1. インドネシア語から日本語へ

インドネシア語では、能動文と受動文が同程度に出現するようである。以下の(1)のように、前者は他動詞（接頭辞me-を伴う）を伴った主格構文、後者は被動詞（接頭辞di-を伴う）を伴った目的格構文と考えられている。また、以下の(2)では、前者は一人称、二人称パターン、後者は三人称パターン、とされている。

(1) Almatsier (2005:92-93)

In the Indonesian language we have 2 types of sentence structure:

A. the subjective structure with the me- verbs:

(Ex) Ayah membuka pintu ini. (ayah=father, buka=open, pintu=door)

Mereka membawa surat itu ke kantor pos.

(mereka=they, bawa=carry, surat=letter)

SUBJECT + PREDICATE + OBJECT

In these sentences the subject (the agent) is the

most important part.

B. the objective structure with the prefix di- added to the verb:

(Ex) Pintu ini dibuka (oleh) ayah.

Surat itu dibawa mereka ke kantor pos.

In these sentences the object is the most important part. It can be compared with the English passive voice. This structure is only possible with verbs that are transitive in Indonesian.

OBJECT + PREDICATE + SUBJECT

(括弧内は (oleh) 以外, 筆者による)

(2) 森山・柏村2003:63-64

受動形 (目的語優先) の文

三人称パターン

行為の対象 + di-動詞原形 + (oleh) + 行為者

Amin membaca surat itu. Surat itu dibaca (oleh) Amin.

Mereka membaca surat itu. Surat itu dibaca (oleh) mereka.

Orang itu membaca surat itu Surat itu dibaca (oleh) orang itu.

Dia membaca surat itu. Surat itu dibaca oleh dia.

Ia membaca surat itu. Surat itu dibacanya/dibaca olehnya.

一人称, 二人称パターン

行為の対象 + 人称代名詞 (= 行為者) 動詞原形

Saya membaca surat itu. Surat itu saya baca.

Aku membaca surat itu. Surat itu kubaca.

Anda membaca surat itu. Surat itu Anda baca.

Kamu membaca surat itu. Surat itu kamu baca.

(3) どんな条件下で, objective structureが出現するのだろうか? 「心の中で一番大切なことを強調する」ためではないのか。そうではなく, 主題化された目的格名

詞を前置することでobjective structureが発達したと考えたほうがいいのではないだろうか。次の崎山 (1982) がこの見方を補強している。

(4) 崎山 (1982:206)

インドネシア語の主題にも日本語の「ハ」の現象と平行するところがある。

Aku mengirimkan buku itu kepada ayah.

(私はその本を父に送る)

Buku itu aku kirimkan kepada ayah.

(その本は私が父に送る)

(5) インドネシア語の主題構造と日本語の主題構造の比較の可能性

<仮説>インドネシア語と日本語の情報構造 (主題-解説) は似ている

インドネシア語:

主題 (Topic) + 解説 (Comment)

日本語:

主題 (Topic) + 解説 (Comment)

(6) 仮説を証明するために, インドネシア語の受動構文の機能を解明することが大切である。

7.2. インドネシア人日本語学習者専用のテキストの必要性

(1) 日本で日本人が作った日本語テキストの限界: 汎用性 = だれのためでもない

(2) インドネシア語の特徴を生かした記述によるテキスト

(例) 語構成 (1) prefix (2) infix

(3) suffix (4) confix

(1) be (L)-: ajar (teach) → belajar (study)

(2) -em-: cerlang (radiant bright)

→ cemerlang (bright, excellent)

(3) -an: makan (eat)

→ makanan (food, meals)

(4) ke-...-an: barat (west)

→ kebaratan (westernized)

(3) 膠着語という共通性

A. Wikipediaによる

Indonesian is an agglutinative language and new words are generally formed via three methods. New words can be created through affixation, formation of a compound word, or reduplication.

An agglutinative language is a language that uses agglutination extensively: most words are formed by joining morphemes together. This term was introduced by Wilhelm von Humboldt in 1836 to classify languages from a morphological point of view.

B. 日本語の膠着性

Tabi-sase-rare-nakat-ta

→ main verb + aux.-sase- + aux. -rare- +aux.
-nakat + aux. -ta

<追記>本稿は、2010年10月20日にインドネシア・バンドン市で開かれた、インドネシア日本語教育学会及び国際交流基金主催の「国際シンポジウム－第二言語習得研究－」において行った基調講演「インドネシア語と日本語の間で－第二言語習得研究を目指して－ (Meninjau Penelitian Terhadap Pemerolehan Bahasa kedua dalam Bahasa Indonesia dan Bahasa Jepang)」に加筆・修正をしたものです。

参考文献

崎山理 (1982) 「インドネシア語の談話の構造」『講座日本語学12 外国語との対照Ⅲ』明治書院, pp.199-215.

迫田久美子 (2001) 「学習者の文法処理方法」『日本語学習者の文法習得』大修館, pp.25-43.

柴谷・影山・田守 (1982) 『言語の構造－理論と分析－意味・統語篇』くろしお出版, pp.220-221.

白井恭弘 (2008) 『外国語学習の科学』岩波書店, 岩波新書1150.

筑波ランゲージグループ(1991) 『Situational Functional Japanese 1』凡人社.

名古屋大学言語文化部日本語学科 (1992) 『現代日本語コース中級Ⅱ聴解ワークシート』名古屋大学出版会.

西郡仁朗・遠藤織枝・宮崎里司・中山辰巳 (2011) 「EPA介護従事者制度 日本語教育から見た振り返りと課題」『2011年度日本語教育学会秋季大会予稿集』(社) 日本語教育学会

日本放送協会 (2005) 『NHKテレビ アジア語楽紀行 バリ・旅するインドネシア語』日本放送出版協会.

森山幹弘・柏村彰夫 (2003) 『教科書インドネシア語』東京: めこん.

Almatsier, A.M. (2005). *How to Master the Indonesian Language*, twentieth edition. Jakarta: Djambatan.

The Walt Disney Company (2003). *Disney Indonesian-English Dictionary*. Jakarta: Penerbit PT Gramedia Pustaka Utama.

Gass, S.M. & L. Selinker(2008). *Second Language Acquisition – An Introductory Course*, third edition. New York and London: Routledge.

Selinker, L(1972). Interlanguage, in *International Review of Applied Linguistics* 10.

Selinker, L(1988). *Papers in Interlanguage*, Occasional Papers No.44. Singapore: Seamo Regional Language Center.

Wikipedia (http://en.wikipedia.org/wiki/Indonesian_language)